

2022年5月10日

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

加納 圭 (滋賀大学 大学院教育学研究科 教授)

2. 課題名

学習データ利活用 EdTech(エドテック)の ELSI 論点の検討

3. 実施期間

2021(令和3)年10月1日 ~ 2022(令和4)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、学習データなどを利活用する EdTech (Educational Technology; エドテック) を対象として、教育分野や日本社会の文脈の考察を通じた ELSI 論点の深掘り検討を目標として実施されたものである。本プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、(1)EdTech を構成する科学技術及びその環境・システムまで視野を拡げ、EdTech の特殊性を考察するとともに、(2)新興科学技術の ELSI/RRI という普遍的な論点を整理すること、(3)教育分野に偏らず複合的な視点を持つための実施体制の強化、などの点を期待した。

企画調査期間内に、国内外ですでに顕在化している課題事例や法規制の比較なども踏まえて「EdTech の ELSI 論点 101」をとりまとめ、総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) やデジタル庁が実施したパブリックコメントへの意見提出、シンポジウム開催などアウトリーチにも積極的に取り組んでいることは、企画調査活動の充実度を示すものである。また、調査・インタビューを通じて実施体制の強化を行っていること、今後の展開につながりうる新たな研究開発要素の獲得や、分析枠組みの視点の整理も一定の水準でなされていることから、本企画調査の目標は概ね達成したと評価する。

これら、EdTech に関わる ELSI 論点について包括的・体系的な整理を試みた成果をもとに、「日本社会」における「教育」という分野の特殊性と、普遍的論点の整理・分析についてはさらなる精査がなされるものと期待する。国際的に急速に進んでいる EdTech の社会実装への着眼を出発点としつつ、その科学技術を取り巻く法制度・社会システム・文化・価値などの普遍的・根源的な ELSI の側面にも研究開発の射程を拡げ、挑戦的な ELSI/RRI 研究としての構想につなげていただきたい。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループチームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職は2022年3月末時点)